



**■青森ねぶた祭**  
七夕祭りの灯籠流しが原型ともいわれる青森ねぶた祭。22台の大型ねぶたが出陣し、囃子とハネが渾然一体となり、短い夏に、その魂を爆発させます。



**■秋田竿燈まつり**  
真夏の病魔や邪気を払う、ねぶり流し行事として長い歴史を持つ竿燈まつり。勇壮な男たちが、重さ50キロ、高さ12メートルの巨大な竿燈を自由自在に操る妙技は必見です。



**■盛岡さんざ踊り**  
さんざん悪さをしていた鬼の退散を喜んだ人々が「さんざさん」と言って踊ったという地元の伝説に由来するさんざ踊り。ギネス記録を持つ「世界一」の太鼓大パレードや、飛び入り参加できる輪踊りも楽しい踊りです。

**東北六魂祭**



**■山形花笠まつり**  
「ヤッショ、マカショ」の威勢のいい掛け声と、あでやかな衣装の踊り手たちが、華麗な群舞で魅了する。紅花をあしらった笠の波がうねる様子が美しい祭りです。



**■仙台七夕まつり**  
伊達政宗公の時代から続く、日本一の七夕まつり。仙台の街全体を美しく彩る七夕飾りには、毎年200万人以上の観光客が訪れます。



**■福島わらじまつり**  
古来より健康を願い、地元足尾神社に奉納される大わらじにちなんで開催されているまつり。まつり会場に奉納される日本一の大わらじは必見。

告知  
**「東北六魂祭 2013」ツアーの実施**

(6月1日、2日)

東北の代表的な6つの夏祭りが参加する祭り「東北六魂祭」。第3回を迎える今回は、福島を舞台に行われます。そこで京都商工会議所 会津若松商工会議所「相互交流Year」推進協定事業として、「東北六魂祭」と、新島八重と山本覚馬のふるさとである「会津若松」を巡る会員限定ツアーを実施します。(4月から募集予定)

京都商工会議所の第2代会長 京都近代化の立役者  
NHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公である新島八重の兄



**【山本 覚馬】**

文政11年(1828)、覚馬は会津藩砲術指南役の父・権八と母・佐久の長男として生まれる。9歳で藩校日新館に入学した後はその才能をいかんなく発揮し、常に成績優秀者だった。23歳で華の江戸へ遊学、佐久間象山や勝海舟、そのほか各藩の優秀な人材に接触していくことで、国家という意識、世界のなかの日本という意識に目覚め始める。29歳で会津に帰ると同時に日新館の教授に任命され、館内に蘭学所を開設。文久2年(1862)に京都守護職に就任した会津藩主・松平容保公に従って、軍事取調兼大砲頭として上京する。元治元年(1864)の禁門の変で覚馬は砲隊の指揮を執るが、この頃は

より目を思う。視力が徐々に失われていく中で、洛中に洋学所を開設するとともに、内戦を回避して海軍力を強化する国防論を説き続けた。しかし鳥羽・伏見の戦いが起きてしまい、薩摩藩邸に捕らえられる。このとき既に覚馬の目は失明寸前だった。その時、獄中で日本の行く末を思索した意見書「管見」を起草し、それが京都の近代化の青写真ともなった。「管見」は明治政府の目に留まり、京都府は顧問の椅子を覚馬に用意、以後、急速に京都近代化の布石が打たれていく。真つ先に着手したのが殖産興業で、鉄工所、製紙工場、養蚕場、病院、舎密局などを次々と開設、また人材育成にも情熱を注ぎ、日本初の女子教育の場として女紅場や、同志社大学の設置などに奔走する。明治18年(1885)には京都商工会議所の第2代会長として京都の経済界をリードし、また彼の育てた門下生が実業家として電気、鉄道、紡績など殖産興業の種を見事に育て、衰退した京都を日本屈指の文明開化の都市へと発展させた。まさしく覚馬なくして、京都の近代化の幕開けは語れない活躍をする。明治25年(1892)に65才で死去。若王子山頂にある同志社墓地で、妹・八重たちとともに今も京都を見守っている。

**『什の掟』**

会津藩士の行動規範となっていた「什の掟」。ドラマで度々その名前が出てくるので聞いたことはあるものの、内容を知らない人が多いのでは。会津藩では、6歳から9歳までの藩士の子供たちが10人前後のグループ(この集まりを「什」という)をつくり、この掟を皆で唱和して覚えたそうです。現代でも通ずるところもある内容ですので、皆様にご紹介します。

- 一、年長者(としえのひと)の言うことに背いてはなりません
  - 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません
  - 一、嘘言(うそ)を言うことはなりません
  - 一、卑怯な振舞をしてはなりません
  - 一、弱い者をいじめてはなりません
  - 一、戸外で物を食べてはなりません
  - 一、戸外で婦人と言葉を交えてはなりません
- ならぬことはならぬものです



会津若松のシンボル「鶴ヶ城」

京都商工会議所と会津若松商工会議所は1月18日、震災復興などを目的にした「相互交流Year」推進協定を締結し、調印式に両会議所の役員・議員や来賓として門川京都市長、室井会津若松市長など約100人が参加しました。

京都と会津若松は、京都守護職として幕末の京都で治安保持にあたった会津藩主松平容保公、NHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公新島八重の兄で、京都商工会議所会長のを務めた山本覚馬など、歴史的なつながりが深く、その縁により今回の協定締結に至りました。

協定の調印式では冒頭、宮森会津若松商工会議所会頭が「先人たちの縁や「八重の桜」支援事業の展開等により結実した本協定締結は、震災復興の原動力になる」と挨拶、続いて立石本所会頭が「観光や物産展、伝統工芸の振興など交流を着実に実行し、さらに絆を深めていきたい」と発言し、相互交流協定に対する想いを述べました。

調印では、立石・宮森両会頭が協定書に署名し、立会人である会津松平家第14



京都と会津若松の両会議所の正副会頭、両市長、松平氏が記念品を前に記念撮影

代当主松平保久氏と3名で固い握手を交わし、相互交流の強力な推進を誓い合いました。

続いて記念品の交換が行われ、本所からは西陣織で描かれた会津磐梯山の額が、会津若松商工会議所からは会津の伝統工芸品である会津絵ろうそくが、それぞれ相互交流推進の証として贈られました。今後、両会議所は協定の内容に基づき、相互の縁を深め、観光・物産などの交流を活発化し、会津若松をはじめ東北の復興に向けて力強く活動していくことになっております。

また、調印式終了後、京都と会津若松との交流の歴史などについて、松平保久氏の特別講話が行われたほか、交流会では参加者たちが懇親を深めました。